反改憲運動通信 第7期

1部 200円

2012.2.1 No. 17

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A
淡路町事務所気付　Tel. & Fax. : 03-3254-5460
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org
Website : http://www.alt-movements.org/han-kaiken/

年間定期購読料　4,000円（2011. 6～2012. 5）
郵便振替　00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

1年目の3・11
福島県民大集会と全国各地の「脱原発・再稼働阻止」行動の成功を!

１年目の「３・11」がやってくる。昨年12月16日、野田首相は福島第１原発の「冷温停止状態」と「事故自体の収束」を主張し、「工程表ステップ２」の完了を宣言した。しかし野田の「収束宣言」は被災した当該住民や地元自治体からも猛烈な反発を受けている。当然だ。大気、海、大地への放射能の流出は今も続いている。メルトダウンを起こした燃料棒がどこにあるのか、現状はどうなっているのかは依然として不明だ。タンクに満杯となった汚染水の処理をどうするのかなど、事故の緊急対応策への処理も未定のままだ。被害への補償、住民の避難、放射能汚染の最小化、そして農漁民・住民のイニシアティブに基づく復興プランの推進といったあらゆるテーマについては手つかずの状況だ。福島第１原発ではいま現在多くの下請労働者が生命の危険にさらされながら被ばく労働を強制されている。

野田首相は１月24日の第180国会の施政方針演説で「東京電力福島第１原発の事故との戦いは、決して終わっていません。昨年末の『ステップ２』の完了は、廃炉に至るまで長く続く工程の一里塚に過ぎません」と述べた上で、避難している住民の帰還のために「子どもや妊婦を放射線障害から守るため、生活空間の徹底した除染、住民の皆様の健康管理、食の安全への信頼回復に取り組むとともに、被災者の目線に立った公正で円滑な賠償に最善を尽くします」と語ってはいる。しかし彼の演説の中には、この深刻な災害をもたらした政官財学一体となった原発推進政策への検証もなく、謝罪の言葉の一つもない。野田の福島原発事故「収束」宣言と、施政方針演説に貫かれているのは、原発推進政策の延命、そのための停止原発の再稼働と原発輸出の拡大なのだ。「収束」宣言は、いまや世論の多数を占める「脱原発」の気運を必死で巻き戻そうとすることにねらいがある。

１月中に日本で稼働している原発は全54基中、わずか３基になる（関電高浜３号機、東電柏崎刈羽６号機、北電泊３号機）。そして４月末にはついにゼロとなってしまう。そのために政府・電力会社・財界などは「電力危機キャンペーン」を行い、関電大飯３、４号機を突破口に「再稼働」を強行するために躍起となっている。しかしその矛盾と嘘はますます明らかになってきた。「再稼働阻止」・原発輸出計画の廃棄を焦点に原発の延命策に歯止めをかけ、脱原発への道を確かなものにすること、国と電力会社による被害の全面補償と最大限の汚染の除去、そして住民の「避難の権利」確立を求めていくこと――東日本大震災と福島第１原発災害１年目の「３・11」を、私たちはこうしたギリギリの攻防の中で迎えることになった。

３月11日当日は、地元福島では郡山市の開成山球場で自治体首長や各界からの参加による「県民大集会」（12時30分開場予定）が開催される。この日の集会では「脱原発福島宣言」とともに「放射能によって奪われた福島県の安全・安心を国と東電の費用で実現すること。特に子どもを放射能から守ること」「原発事故に伴うすべての補償の実現と、県民の生活と雇用の保障を実現すること」などが訴えられる予定だ。福島県民大集会をともに成功させよう。同時にこの日、全国各地でも福島の人びととつながりながら政府や財界の「再稼働」「原発延命」策にＮＯ！を突きつける行動が企画されている。

一方、昨年９月、11月の経産省包囲行動の成功を受け継ぎつつ、「３・11再稼働反対全国アクション」を呼びかけながら、東京では、当日さまざまな行動をくりひろげながら、午後５時からの「３・11原発ゼロへ！国会囲もうヒューマンチェーン」に合流しようという相談も進んでいる。

福島現地の集会に呼応し、原発立地をはじめとする全国各地で「原発いらない！　再稼働阻止」のアクションを起こそう。

（国富建治／事務局）

憲喧諤愕

「3.11」から一年、が近づいているが、アラブ革命１周年もお忘れなく！　先日はエジプトの「１月25日革命」（現地ではこう呼ぶ）一周年でした。その前日の24日、30年間続いた緊急事態法が部分的に廃止されるという発表を聞いたときは、不覚にも（涙）。▶かたや日本では「3.11」以後、研究者やNGOの専従なんかを別として、パレスチナやアラブに「関心を持つ」人たちの「内向き」化を感じてきた。直接被害を受けなくても、余波で仕事が減ったり、今後の人生に不安を感じたりして、外の世界どころではない、というムード。ムードというか現実に無理。それぞれに忙しく、話をする時間もない。これはきっと他地域との場合もそうだ。▶所詮は自分たちに余裕があってこその、外の世界とつながる指向性？　答えはない。だけど原発問題は日本一国の問題じゃない。日本の課題と世界の課題がここまで直につながりながら、身体の方はなかなか追いつけないでいる。　（た）

第15回許すな! 憲法改悪・市民運動全国交流集会
「いのちが大事――いらない！原発と基地 in ヒロシマ」にご参加ください！

2月18～19日、今年は原発と基地をテーマに「許すな！憲法改悪・市民運動全国交流集会」を広島で開催する。全国交流集会は、その年の方針を討論する集まりと位置付けているが、毎年各地の方々との交流も楽しみだ。昨年は大分の皆さんのお蔭で日出生台実弾演習をするなと闘っている人々と、先年は沖縄で、憲法と基地問題をつなぐ有意義な集まりになったと思う。昨秋から憲法審査会が開かれ、国会で改憲にむけ動き出しているが、ヒバク、基地、そして改憲、命を守るために大変困難な年になりそうだ。

3.11以後のヒロシマの役割は大きいはずだ。が、これまで広島行政は被爆地でありながら原発を「平和利用」だとしてむしろ進める側に立ち、原発大国を許してきた。低線量被曝を無視して原爆症認定もいちいち国へ裁判で訴えなければならない。経済界も中国電力の力は大きく原発反対の市民の声はかき消されてきた。しかし私たちは、2年半前の上関原発建設のための埋め立て着手を機に広島ネットワークを再結成したり、生活そのものを見直そうという若い人たちと出会えたり、脱原発の動きは次第に広がって来ていた。だから昨年の3.11以降、8.6など連続の大きなコラボが実現できた。一方、岩国の米軍基地は滑走路の沖合移設は結局、滑走路は2本にして空母艦載機部隊他基地を拡張強化、また愛宕山開発は米軍住宅化に何度も騙された市民も負担が増えるばかりだと黙っていない。しかし見方を変えるとそこは出撃基地にもなるわけだし、原発輸出をすれば海自の海外派兵同様、呉も広島も絡み、海外進出する企業も多い。誰が利益を得るのか、加害側になっていないか、これでいいのか、常に気にかけていなければと思う。

今回の全国交流集会は第九条の会ヒロシマの20周年上條恒彦ミニコンサートと合わせて行う。設立した中心メンバーの多くは軍都廣島を繰り返すまいと湾岸訴訟の原告となって闘った。あの時代はまだ抽象的概念だとされた平和的生存権が名古屋イラク訴訟では人権として認められ、私たちの小さな「市民によるフランス原爆展」から広島市が海外でも原爆展を開くようになった。最新ニュースだが美しいブナ林のある十方山細見谷の大規模林道建設が止まった。環境問題の小さな市民グループ20年の取り組みがなければ上関同様とっくに壊されていたはずだ。継続すれば少しずつでも力になっていく……。渡辺治さんの講演は日本の今を解き明かし市民の役わりを示唆して下さるだろう。武藤類子さんの福島からのメッセージは広島で再び感動を呼び起こし思いを共有することができるだろう。各地で頑張っている皆さんにご参加頂き、話し合い学び合って、今年も行動していきたい。

（藤井純子／第九条の会ヒロシマ）

報告◆市民の傍聴要求が密室の扉をこじ開けた! 再稼働のための「ストレステスト意見聴取会」に抗議アクション

市民の直接行動が保安院の目論見を破産させた――1月18日、原子力安全・保安院が開催した「ストレステストに係る意見聴取会」に対して、緊急の抗議アクションが取り組まれた。

保安院は、傍聴者を別室に締め出し、審査対象の原発メーカーであると同時にストレステストを実施した三菱重工から献金を受けている「利益相反」3委員（岡本孝司、山口彰、阿部豊）を居座らせたまま、大飯原発3、4号機は「安全」だとする評価書素案の提示を強行しようとした。「3・11」を経ても「原子力ムラ」の慣習を押し通そうとしたのである。

これに対して、福島原発事故緊急会議は、1月13日に傍聴締め出しの撤回と利益相反委員の解任を求める要請書を提出。1月15日には、飯田哲也さん、金子勝さん、松田美由紀さんなど「脱原発世界会議」の登壇者有志16人が同様の緊急声明を発していた。

18日、午後3時から東電前アクション呼びかけのアクションがスタート。グリーンピース・ジャパンは、山本太郎さんや千葉麗子さんと共に、ちょび髭の岡本委員を皮肉るパフォーマンスを展開。傍聴団は別室のある10階ではなく会議場のある11階でエレベーターを降り、薄暗い廊下を抜けて会議室に入場した。まさか本当に入れるとは思っていなかった「想定外」の状況下で、傍聴団は、完全に構図を逆転させ、保安院側を終始圧倒した。

福島から来た女性は、「事故は本当に収束したのですか」と問いかけたが答えられる委員は一人もいなかった。利益相反の岡本委員は傍聴者の再三の問いかけに、隣の市村原子力安全基盤課長と談笑した以外はだんまりを決め込んだ。経産省はなんと警察に介入を要請。外で抗議していた人々が 機動隊の侵入を数度に渡り食い止めたものの、別の入口から経産省内に入った。

保安院は、進行を協議するとして委員やＪＮＥＳ（原子力安全基盤機構）、電力会社を別室に連れ出したが、後藤政志、井野博満の両委員は応じられないと拒んだ。その後、保安院は本館の別会場であくまで聴取会を強行すると表明。「傍聴を認めるなら出席したい」とする後藤、井野委員を事実上排除した。結局、「聴取会」で最後まで残ったのは全11人の委員中わずか4人という無効なものに過ぎなかった。

マスコミは保安院による退去要請に従わず、傍聴者と2委員の主張を取材し続けた。「やらせ聴取会」の実態は世界に知れ渡った。傍聴者と寒空の下で抗議を続けた人々の力が、保安院の危険な目論見を破産させた。

引き続いて企まれたＩＡＥＡ来日という「やらせミッション」に対しても26日、抗議アクションが行われた。次回2月8日の意見聴取会に対してもアクションが取り組まれる。稼動中の原発はわずか3基。原発ゼロの日本はすぐそこまで来ている。

（杉原浩司／福島原発事故緊急会議、みどりの未来）

◆報告◆

東京「日の丸・君が代」処分、1．16最高裁判決
停職・減給は「裁量権」の逸脱――累積加重処分に一定の歯止め

1月16日、最高裁は、東京都教育委員会の「2003.10.23通達」による処分の是非について初判断を下した。「日の丸に向かって立ち、君が代を歌え、ピアノ伴奏をしろ」という通達と校長の職務命令に違反し、卒業式等の「君が代」不起立・ピアノ伴奏拒否などで、戒告以上の懲戒処分を受けた人の数はすでに437人。最高裁は「減給以上の処分の選択には慎重な考慮が必要」と、河原井純子さんの停職1ヶ月と渡辺厚子さんの減給処分を取り消した。戒告処分及び根津公子さんの停職3ヶ月は上告棄却。処分権の乱用に大きな歯止めをかける一方で、見せしめ的に根津さんの処分を容認、通達－職務命令と戒告処分を正当化し、政治的な判断を併せ持つ分断判決となった（裁判官5人中反対1人、補足意見2人）。

都教委の方針は、職務命令違反「1回目は戒告、2・3回目は減給、4回目以後は停職」という累積加重だ。大阪で目論まれている「教育基本条例」は「3回で免職」を明記する。東京状況を一気に越えるむちゃくちゃな条例だ。機械的な累積加重に待ったをかけた判決は都教委や大阪・ハシズムの暴走に大きな警鐘を鳴らすものだと思う。

一方で判決は「過去の処分暦に係る非違行為が内容や頻度において規律や秩序を害する程度の相応に大きいものである」場合は「停職も妥当」として、根津さんが過去に受けた「日の丸」引きおろしや再発防止研修でのゼッケン着用などの処分の中味が積極的な妨害行為に当たると断罪、「規律や秩序」と「処分」との権衡で判断する、とした。

160人超、都立学校教職員の第一次訴訟は、昨年3月、戒告・減給処分を取り消し逆転勝訴した東京高裁判決から、渡辺さんの減給処分のみ取り消し、戒告処分棄却とした。戒告処分を「当不当の問題として論ずる余地はあり得る」と、無条件に容認していないのが救い。

「『一部勝訴』ではあるけれど、『一部勝訴』には終わらない意義がある」（棄却された原告の一人）。最高裁が引いた分断の線は私たち自身によって乗り越えられるのだと思う。

大阪では、6月の「君が代強制条例」をうけ、全教職員に「起立斉唱」の職務命令が出された。教育基本条例については、判決をうけ修正――1回目の処分から研修を義務付け、誓約書を書かせる方向だ。石原都知事は判決を「非常に不満」とし「子どもへの刷り込みは、教員の基本的なルーティン」と発言、都教委は「職務命令は合憲」と「適正実施」を通知した。2月9日には「10.23通達」に従う義務がないことの確認を求めた「予防訴訟」の最高裁判決も出される。「10.23通達は違憲」とした一審難波判決を逆転敗訴とした控訴審判決が維持される見通しで、一連の判決をどう読み、どう使うか、正反対の駆け引きが始まっている。今、「歌わない自由　少数者の居場所を残せ」（池澤夏樹）――私たちの民主主義が問われているのだ。

（京極紀子／「日の丸・君が代」の法制化と強制に反対する神奈川の会）

報告◆ストップ！ ヤマサクラ61（日米共同軍事演習）大集会に800人が参加

82年から始まった在日米陸軍（山）と陸上自衛隊（桜）との共同図上軍事演習は、作戦名《ヤマサクラ》と称して、以来年2回の略称YS-1に始まり、今年はヤマサクラ61（YS-61）が陸自中部方面総監部のある伊丹駐屯地で1月31日から2月5日まで実施される。この方面隊指揮所演習の奇数番は国内で実施され輪番制であるが、ここ伊丹では00年と07年に次ぎ3度目の演習である。都度演習反対を訴えて、抗議運動の形成のため実行委が準備されてきた。

この図上演習は、まさにコンピュータを駆使しての自衛隊（2府4県）4500人、米軍（ハワイ・韓国）1500人の計6000人規模での連係プレーによるシミュレーション作戦の実施である。そのシナリオは架空であっても内容は時々の世界情勢とは無縁ではない。今回はオブザーバーとしてオーストラリア陸軍の参加もある。

自衛隊は、そのシナリオを仔細には明らかにしないが、イラン・アフガニスタンからの撤収を決めたオバマ米大統領が、今年年頭に表明したアジア太平洋地域の同盟国との関係強化・オーストラリアへの米軍駐留という「新国防戦略」に沿ったものであるだろう。ある日突然、仮想国とされているが中国と北朝鮮の連合軍が本州・大阪を占領する。そしてそれにいかなる反撃をするかという筋書きだそうだが、米国の中国けん制を強く意識した内容で、米戦略に従属したこのような演習こそがアジアでの緊張を作り出しており、排外主義を鼓舞しているのだ。

こうした事態を踏まえ、1月22日、「人間の鎖」で伊丹基地を包囲し、中止要請文を渡すべく基地近くの昆陽（こや）池公園に800人が結集した。

ステージには社民党・共産党・新社会党・市民派議員・運動団体の代表が立ち並び、遠く沖縄・名護市からヘリ基地反対を訴える比嘉靖さんによる「基地をなくすというパブリックイシューこそが私たちの連帯の基礎である」という力強い連帯のあいさつを受けた。参加者全員に赤字で「怒」と書かれた紙が渡されており、それを掲げて最後に「団結！ガンバロウ！」を斉唱してデモに移った。

デモ途中、例の如く右翼・在特会数人が日の丸をもって「日本から出ていけー」と罵声を浴びせる場面もあったが、無視。「人間の鎖」ならぬヒモをつなげての基地包囲行動に移る。代表団が基地に申し入れしている間、ウェーブでもって参加者の連帯感と抗議の意思を互いに確認する。ところがそのウェーブがなぜか途中で止まり、または逆に戻ってくるので皆首をかしげる。それはまぁいいのだが、基地入り口付近ではそのヒモが警察に取り上げられたという話を後で聞く。「事前に聞いていない」というのだ。警察の知ったことかと思うが落胆するほどのことではない。年の初めをデモで飾る。幸先良し。

（古橋雅夫／関西共同行動）

「生きてるうちが花だよ」と森崎さんの映画は囁く。
――被曝労働者たちを描いた映画から

第４回目の「連続講座 今こそ、被曝労働（者）問題を考えよう」が１月22日に水道橋のたんぽぽ舎で開かれた。これまでの直球一本に比べて、今回は映画を取り上げたやや変化球の会である。付けた側がいうのも変だが、「やっぱり『生きてるうちが花』なのか、どうして『ニワトリはハダシ』なのか？」という妙に長いタイトル、これがなんだか分からない。映画通でもないのに説明すると、森崎東監督が原発労働者たちを描いた『生きてるうちが花なのよ死んだらそれまでよ党宣言』（1985年）を観ながら、その取材と脚本を担当した近藤昭二さんにお話を伺う一席である。その森崎監督が20年ぶりに同じキャストやスタッフで撮った最新作が『ニワトリはハダシだ』（2004年）なのである。

チェルノブイリ原発事故が起きる１年前に作られた『生きてるうちが～』は、昨年の３.11大震災に揺さぶられて眼を覚まし、全国各地で上映されている。あれから原発に絡んだ多くの映像が「発掘」された。それだけ映画の世界にも「原子力レジーム」が重くのしかかって「埋め込まれて」きたわけだが、これまで原発労働者たちを正面から主人公にした作品はおそらくこれ１本である。

1979年には、建屋内部の作業を体験した堀江邦夫さんによる当時唯一の記録『原発ジプシー』（改訂版は『原発労働記』講談社文庫）が出された。彼が構内セットの撮影に協力し、敦賀で結成された原発労働組合のビラがスクリーンをかすめるなど、原発にまったく無知だった私には重要な証言になっているが、それだけではない。

映画は、いきなり中学校の校門で「落ちこぼれ」たちが修学旅行積立金を強奪するカーチェイスで幕を開ける。そして、コザ暴動で追われてきた主人公のカップルはじめ沖縄人の家族たちが暮らす酒場に彼／彼女らが籠って、軽妙かつ残酷なドタバタ劇が進行する。20年後の近作も、母が在日朝鮮人の自閉症少年をテーマにこの社会の鍋底でさらに煮詰まった「人間のごった煮」を描いたものだ。そこには制作チームの志が深く貫かれているのである。

近藤昭二さんは、美浜原発の現地に何度も足を運び、周辺の飲屋街に集まる労働者たちと酒を酌み交わしながら、こんなストーリーを紡ぎ出した。テレビ局でドキュメンタリーを制作してきた経験から、フィリピンから来た水商売出稼ぎの「じゃぱゆきさん」本人を登場させて、米軍基地の「オンリーさん」（将校相手の専属愛人）をめぐるエピソードを組み合わせ、架空のコザ暴動体験者に縒り合わせていく――といったお話は、映画好きには垂涎もの、運動する側にとってもたいへん刺激的なものだった。

出来すぎた山田洋次作品とは味の違う『男はつらいよ　フーテンの寅』シリーズ３作目を撮った森崎監督の映画は、決して格好よく「玉砕」しない。体を蝕まれながら原発の中で働く人たちに、そして私たちの一人ひとりにも「生きてるうちが花だよ」とエネルギッシュに、かつそっと囁くのである。

（平井玄／半径１キロの思想家）

◇原発を読む◇『原発と権力――戦後から辿る支配者の系譜』

山岡淳一郎 著
ちくま新書／760円+税

原発づくりを推進した日本の国家権力が何故これほどまでに「原子力」を好んだのか、それの歴史的解明が本書のモチーフである。「あとがき」で著者は、こう論じている。

「福島第一原発事故のニュースに、始めて接したとき、／ああ、これで昭和が終わったなと、思った。戦後の復興、高度成長、バブル崩壊、金融危機と、時代が変転するにもかかわらず、一貫して国策として推進された原発は、最後の昭和モデルと感じていた。それが、とうとう終わってしまったのだ。／被災地の福島へ、取材で足を運んでいるうちに、その思いはさらに強くなった。しかし、被災地の苦悩をよそに権力ゲームをくり返す永田町の住人を眺めていると、終わったけれど次がない絶望感にとりつかれた。原発政策への内省はなく、ただ『脱』だの『維持』だと、感情論を戦わせる。呆れながらも『３・11』をどう後世へ語り継ごうかと悩んだ。／たどり着いたのが、『原発は何処からきて、何処へいこうとしているのか』という根本的なテーマだった。原発を国策として推進してきた権力の系譜を書こうと決めた。／原発を草創期から一貫して推進してきた中曽根康弘氏は、この二〇一一年六月、横浜市で開かれた『太陽経済かながわ会議』にビデオメッセージで登場し、こう語った。／『原子力という巨大エネルギーも人間のために有効利用するのが知恵で、自然との闘いを部分的に克服してきました。しかし原子力には人類に外を及ぼす一面もあって、それを抑えるのが人間の文化と歴史です。今回の事故もその中で捉えたらいいと思います』。／あれほど原発の恩恵を語ってきた政治家が、その害を認め、さらに言葉を続けた。／『これから日本を太陽国家にしていきたい』／政治家は説を曲げれば済むかもしれないが、国民はそうはいかない。原発依存から脱却するには相当の覚悟が必要だ」。

本書のサブタイトルは「戦後から辿る支配者の系譜」である。そこでは日本を原発大国にするベースを強固につくりだし、後に首相として「核燃料サイクル」構想を突き進んだ中曽根の動きが。そしてCIA（アメリカ）と結びついてテレビ・新聞の世界のドンとして政界に登場した正力松太郎のマス・メディアをまきこんで「安全神話」をつくりだしていく政策が。さらにはウランの外交戦略を展開し、「地方復興」の名目で、金をふりまいて、さらなる原発づくりを可能にした田中角栄のブルドーザーのような日本列島破壊の政策が。リアルかつ具体的に時間軸にそって分析されている。

読み終わって、私はこう思った。やはりこの大惨事（事故）は、〈戦後復興〉の必然的ゴールとして産み出されたものだな、と。

今、被災地の「復興」が権力者のマスコミによって、なによりも優先されるべき課題として、それを批判することは許されない問題のごとく叫ばれ続けている。しかし、国家の権力者とマスコミ・資本が一体化して推進してきた戦後の「復興」のゴールにこそ、この惨劇がまちうけていたのであるとすれば、彼らには、そもそもえらそうに「復興」を語る権利などないはずである。彼らの復興プラン（や被災による追悼のセレモニー）が本当に被害にまみれた人びとの生活（命）の再建につながるものであるわけはないのだ。国家と電力資本、マスコミ、彼らの責任を問い、キチンと補償させること、ここにしかまともな生活再建への道はないのだ。今度こそ、このスタンスを手放さない「覚悟」が私たちに必要だ。

（天野恵一／事務局）

反改憲ニュースクリップ
2012年1月14日～1月28日

日の丸・君が代最高裁判決で都の弾圧に一定の歯止め

【1月15日】〈新防衛相〉内閣改造で新防衛大臣に就任した田中直紀が、NHKの番組で、PKO参加の際の武器使用基準と武器輸出三原則を混同し、基礎知識不足を露呈した。辺野古移設問題に関しては、「年内に実施、着工できるかどうかが当面の手順になっている。だが、沖縄県民に理解いただかないと物事が進まない」と述べた。

【1月16日】〈日の丸君が代〉入学式などで日の丸に向かい起立して君が代を斉唱せず懲戒処分を受けた東京都立学校の教職員ら計約170人が処分取り消しなどを求めた計3件の訴訟の上告審判決で、最高裁第1小法廷が「減給や停職には過去の処分歴や本人の態度に照らして慎重な考慮が必要」との初判断を示した。停職の2人のうち1人と減給の1人の処分については取り消す判決が言い渡された。しかし、停職者のうち根津公子さんについては、過去に日の丸を引きずり降ろすなどしたことから処分は妥当とされた。また、「学校の規律の見地から重過ぎない範囲での懲戒処分は裁量権の範囲内」として、戒告を受けた教職員らの処分を取り消した2審判決を破棄し、逆転敗訴とした。「同一の職務命令違反を3回行った教職員を分限免職」とする教育条例案を推進している橋下徹・大阪市長は、「条例案では、職務命令違反に対する指導研修を明記しており、現時点で見直すつもりはないが、判決については今後研究したい」と述べた。

【1月18日】〈民主党憲法調〉民主党憲法調査会（中野寛成会長）が役員会を開き、改憲手続法の検討課題となっている投票権年齢の引き下げを優先的に取り組む方針を正式に確認した。

【1月20日】〈PKO派遣〉国連ハイチ安定化派遣団（MINUSTAH）とゴラン高原の国連兵力引き離し監視軍（UNDOF）に参加している自衛隊の派遣期間を延長することが閣議で決定された。ハイチは来年1月31日まで、ゴラン高原は今年9月30日までの延長。

【1月21日】〈ソマリア派遣〉田中直紀防衛相が、7月に派遣期限を迎えるソマリア沖への海上自衛隊の海賊対処活動について、派遣を1年間延長する方針を表明した。

【1月22日】〈自民党大会〉自民党が定期党大会を開き、憲法改正案を策定し国会提出を目指すなどとした運動方針を採択した。

【1月23日】〈普天間〉田中直紀防衛相が就任後初めて沖縄を訪問し、県庁で仲井真弘多知事と会談した。防衛相は辺野古移設への理解を求めたが、知事は従来通り県外移設を主張し、会談は平行線のまま終わった。また、同日に普天間飛行場を視察した防衛相は「頭上に『ヘリがおりてくる』って言うんだが、そんなに多いわけじゃないんでしょう？　どうなんでしょうね」と発言した。

【1月24日】〈施政方針〉野田首相が、通常国会開会にあたって施政方針演説を行い、大震災からの復旧・復興、原発事故との戦い、日本経済の再生の3つを優先課題として掲げた。経済再生に関しては、「化石燃料が高騰する中で、足元の電力需給の逼迫を回避しながら、温室効果ガスの排出を削減し、中長期的に原子力への依存度を最大限に低減させる、という極めて複雑な方程式を解いていかなければなりません」と述べた。**〈日の丸君が代〉**日の丸・君が代訴訟の最高裁判決を受けて都教育委員会が臨時会を開き、「各校の入学式、卒業式などにおける国旗掲揚および国歌斉唱が適正に実施されるよう万全を期す」とする確認文書を全会一致で議決した。**〈辺野古〉**辺野古移設の環境アセスメントを受託した業者に複数の防衛省OBが天下りしていることが、『琉球新報』の調べで判明した。

【1月25日】〈原発老朽化〉原発の運転期間を原則40年に制限する原子炉等規制法改正案を民主党が了承した。しかし、基準を満たした場合は20年以内で運転の延長を環境相が認可できると明記され、抜け穴が残った。

【1月26日】〈日の丸君が代〉学校行事で日の丸に向かって起立し君が代の斉唱を求める東京都教委の通達は違憲として、都立学校の教職員らが義務がないことの確認などを求めた訴訟の上告審で、最高裁第1小法廷が判決を2月9日に言い渡すことを決めた。2審判断を見直す場合に行われる弁論が開かれず、教職員が逆転敗訴した東京高裁判決が確定する見通し。1審では違憲判決が出ていた。**〈外国人差別〉**兵庫県弁護士会が神戸地裁に推薦した民事調停委員の候補者から韓国籍の弁護士を地裁が除外した件につき、近く最高裁に不服を申し立てると同会が発表した。委員の資格に国籍条項はないが、地裁は「調停委員は公権力を行使し、国家意思形成に参画する公務員であり、日本国籍が必要」として、最高裁への推薦を断っていた。**〈南スーダンPKO〉**南スーダンの国連平和維持活動（PKO）に参加する陸上自衛隊を支援するため、航空自衛隊小牧基地のC-130輸送機1機が物資を積んで南スーダンに向けて出発した。**〈米国防戦略〉**パネッタ米国防長官が国防予算の削減計画を発表した。米軍地上兵力を10万人削減する方針を打ち出したが、減らすのは欧州で、アジア・太平洋地域では兵力を維持する方針。

【1月27日】〈大阪教育条例〉入学式などの国歌斉唱時の不起立教員をめぐって「戒告を超える処分は重すぎる」と判断した16日の最高裁判決を受け、大阪弁護士会が、大阪維新の会が府議会に提案中の教育基本条例案に反対する声明を発表した。**〈無罪推定〉**公訴時効が成立した警察庁長官銃撃事件に関して、警視庁が「オウム真理教の組織的なテロ」と断定した捜査結果を発表したのは教団への人権侵害だとして、警視庁に警告したと日本弁護士連合会が発表した。警告書は「捜査機関である警視庁が、起訴さえされていない人物や団体を犯罪者として断定し公表する行為は（適正手続きの保障を定める）憲法31条や無罪推定の原則に反し名誉権を侵害するものだ」と指摘した。**〈日米防衛相会談〉**田中直紀防衛相が就任後初めてパネッタ米国防長官に電話し、協議した。辺野古移設の日米合意の実現に向け、双方でさらに努力することを確認。

事務局から～

転居の際には…　前号より，宅配メール便で発送しております。郵便局の転送サービスが適応されませんので、転居の際には，必ず事務局までお知らせください。よろしくお願いします。

私も一言 145

桜井大子（反天皇制運動連絡会）

やりたい放題の行政や権力を手にする財界との、境界をまったく感じさせない司法の酷さは、普通に生きていても日常的に見せつけられる。職場も含め、社会的な活動の中で、一人ひとりの人権は紙切れのように扱われ、いとも簡単に踏みにじられる。最終的に法に訴える手段を私たちはもってはいるが、そこですくい上げられるという望みは、これも紙切れほどに薄い。それどころか、権力の不合理な企みや弾圧から人々を守り、権力に正義を突きつけるという輝かしい使命を持つ司法が、これまた権力の暴力と一体化しているような実態も日常的に目の当たりにしている。

それでは憲法の力はどこで発揮できるのだろう。絵に描いた餅かい、とよだれを垂らしながら眺めることが多すぎる。国家や地域行政はすべての人々の人権を保障すべし。不当な権力を行使していないか、司法はきちんと監視するべし。その根拠は、そしてそのように私が書く根拠は、憲法にある。少なくともそのように教わってきたように思う。

だが、このズブズブに腐ったような権力のすぐそばにあって、対峙する司法だけがまともなわけもない。思えば権力とはすぐに腐るものだろうし、司法も権力の一部となりさがっているのだ。それに、私の憲法への思い込みは間違っているように思い始めた。

憲法が唱ってくれなくとも、私たちに必要な権利はあるし、それは主張していいのだ。不正は不正だし、行政は監視されなくてはならない。憲法はそれを私たちが実行するときの道具なのだ。実行する者がいなくては使えない道具なのかもしれない。ならば憲法を司法の専売特許にするわけにはいくまい。磨き直しも必要だが、まずは憲法を使う立場にたとう。

集会・行動情報 2/4 ～2/25

▶2／4（土）大飯原発3・4号運転再開をとめよう関西びわ湖集会＆デモ◆500円◆13：00、デモ：16：20◆ピアザ淡海ピアザホール◆ＪＲ膳所駅・京阪石場駅下車◆同実行委員会

▶2／5（日）10・23通達撤回！「君が代」処分撤回！2・5総決起集会◆13：00開場、13：30開会◆資料代500円◆東京都北区赤羽会館（ＪＲ京浜東北線・埼京線赤羽駅東口下車）◆石原・大原都教委の暴走を止めよう！　都教委包囲・首都圏ネット

▶2／6（月）「北方領土の日」反対！アイヌ民族連帯！関東集会◆ゲストスピーカー：貝沢耕一◆資料代：1000円◆18：30開場。18：50開始◆南部労政会館第3会議室（ゲートシティー大崎・ウエストタワー2Ｆ、ＪＲ山手線大崎駅下車◆ピリカ全国実・関東グループ

▶2／7（火）アイヌ文化から北方諸島の問題を考えるトンコリと語りの夕べ◆ゲスト：結城幸司、福本昌二さん◆参加費：1000円◆18：00開場◆富士見区民館洋室Ａ（ＪＲ総武線・東京メトロ飯田橋駅下車）◆同実行委員会

▶2／11（土・休日）さようなら原発1000万人アクション in 東京◆13：00オープニングコンサート、13：30集会（集会終了後パレード）◆代々木公園イベント広場、ケヤキ並木（ＪＲ山手線原宿駅・東京メトロ明治神宮前駅下車）◆さようなら原発1000万人アクション実行委員会

■さようなら原発1000万人アクション上越集会◆13：30◆上越市ユートピアくびき（希望館）

■「危機」の時代の天皇制を問う！　2・11反「紀元節」行動◆発言：京極紀子、桜井大子、なすび、村上陽子◆13：00開場（集会後デモ）◆日本キリスト教会館４Ｆ（東京メトロ東西線早稲田駅下車）◆同実行委員会

▶2／12（日）さようなら原発1000万人アクション東海集会◆13：30◆静岡市常盤公園

■「建国記念の日」反対！「君が代」起立強制「職務命令」・処分反対　「教育基本条例」に反対するホットライン大阪集会◆13：30開場、集会後デモ・大阪市役所包囲「人間の輪」◆エル大阪南館ホール（京阪・地下鉄谷町線天満橋駅下車）◆「日の丸・君が代」強制反対ホットライン大阪全国集会実行委員会

■矢ケ崎克馬講演会「隠された内部被曝の危険」◆500円◆14：30◆四谷パレ9階ホール（JR四谷駅麹町口下車）◆脱原発・自然エネルギーを考えるカトリック市民の会、共催：カトリック東京・正義と平和委員会

■本気で実現しよう　世界一危険な普天間基地撤去！静かな日々を返せ　普天間基地爆音訴訟報告集会◆講師：西川研一弁護士（普天間爆音訴訟弁護団）◆800円◆13：30◆名古屋ＹＷＣＡホール◆呼びかけ：あいち沖縄会議、不戦へのネットワーク、命どぅ宝あいち、JUCON、名古屋YWCA、聖公会中部教区沖縄PT、東海民衆センター

▶2／18（土）第九条の会ヒロシマ20周年記念講演集会　第15回許すな！憲法改悪・市民運動全国交流集会「いのちが大事――いらない！原発と基地inヒロシマ」◆講演：渡辺治　福島から：武藤類子（ハイロアクション福島）◆14：00◆広島平和記念（原爆）資料館メモリアルホール（広電原爆ドーム前、袋町下車◆共催：許すな！憲法改悪・市民連絡会、第九条の会ヒロシマ

▶2／25（土）3・1朝鮮独立運動93周年　韓国・沖縄の人びとと連帯し平和をつくろう！2・25集会◆講演「2012年政治決戦――韓国進歩陣営の闘い」孫美姫◆資料代800円◆18：00開場◆文京区民センター3Ｆ（都営地下鉄三田線・大江戸線春日駅下車）◆2012　3・1実行委員会

■講演会；チェルノブイリ・フクシマ・明日の日本◆広河隆一、小出裕章◆1000円◆12：30開場◆明治大学リバティータワー　第1会場1011（1階）、第2会場1021（2階）（JR・東京メトロ御茶ノ水駅下車）◆主催：現代史研究会、共催：ちきゅう座、DAYS JAPAN